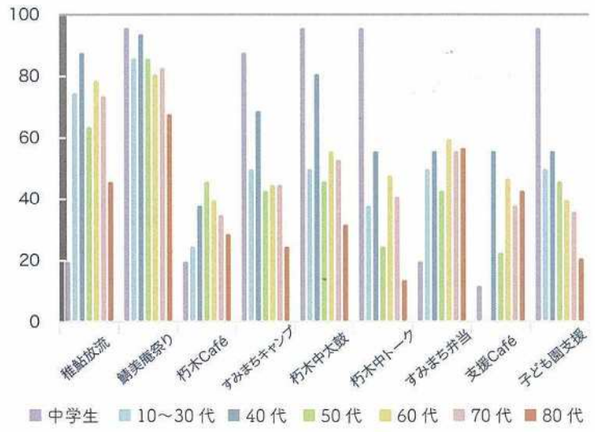
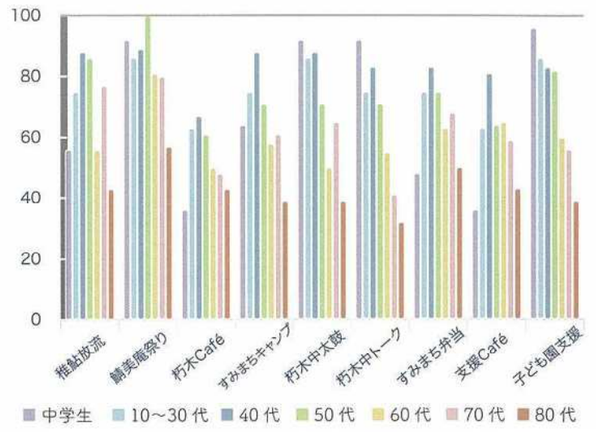
すみまち事業についての認知度と重要度





全体としては、認知度では低いもので３０～４０％高いもので８０％あり、少しずつ知られてきていると思われる。４０代までは子ども園や中学校関連の事業にお子さんが関わり認知度が高い。重要度では、どの事業も５０％を超えており事業継続の必要性を感じる。

地域資源活用部会では、稚鮎放流・鯖美庵祭りは高い認知度・重要度で続けていく必要がある。朽木に関わるすみまち café も若い世代で重要度が高い。

教育部会では、すみまちキャンプ・中学校の朽木太鼓・トークフォークダンスは若い世代で認知度・重要度が高い。これらの活動に関わってくれた若者が、次の世代への架け橋になってくれるとありがたい。

福祉部会では、認知度は事業対象者が限定されていることもありどれも５０％より低い。しかし重要度はどれもほぼ６０％を超えており、事業を継続していきたい。

中学生は、参加した事業の認知度と重要度は高い。その経験を活かしてこれからの朽木地域を盛り上げてくれることを期待したい。

すみまち会員募集中！

すみまち協議会では、くつきを盛り上げるために一緒に活動してくれる方や団体を募集しています。
また「こんなことを一緒にやりたい！」「こうやったらええんちゃう？」など、ご自身のスキルを活かしたアイデアも大募集！詳しくは事務局まで。

すみまち Instagram

日々の活動内容をUPしています。
みんな、フォローしてね！

SUMIMACHI_KUTSUKI

すみまち通信　第１０号
2026年（令和８年）６月
発行：朽木地域住みよいまちづくり推進協議会
会長：上山 基継
事務局：高島市役所朽木支所内
0740-29-0007
（市外局番からおかけ下さい）

すみまち通信 Vol.10

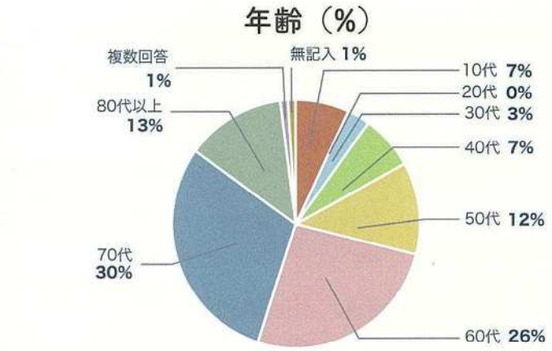
朽木地域住みよいまちづくり推進協議会

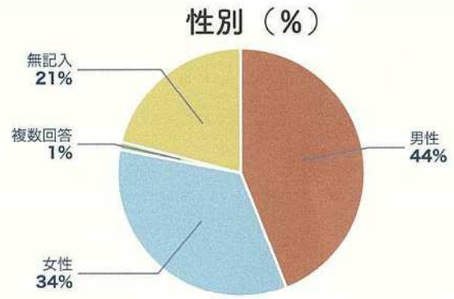
地域のみなさんにご協力いただいた「**まちづくり計画に関わるアンケート**」の集計ができました。
みなさんの日々の生活についての思いがひしひしと感じられる回答をいただきました。このデータを次期計画作りに活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
今回は、アンケート結果の概略を報告させていただきます。

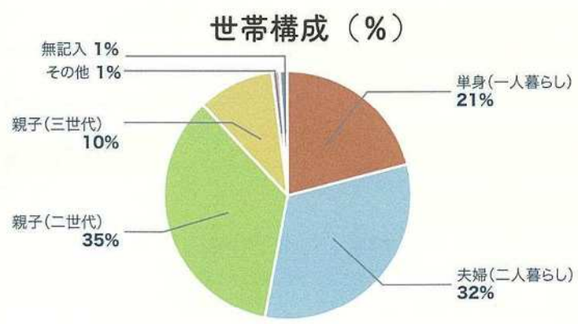
● アンケート結果をまとめて報告します

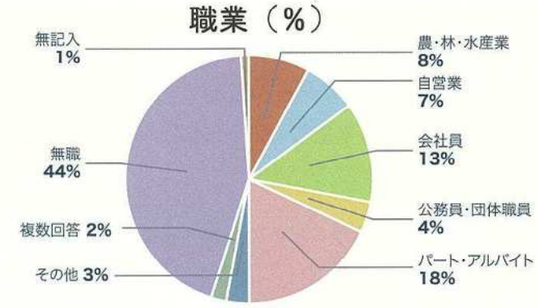
回答数は **237 名** でした。（内 25 名が中学生）
グラフに**年代別／性別／世帯構成／職業**のそれぞれの割合を示しています。

アンケートは２種類行いました。
- 朽木中学校生徒対象
- 地域住民対象（各戸配布）









回答いただいた年代は、**６０代以上が多く**少子高齢化がすすんでいる地域の現状があらわれていました。
そのため、職業では「無職」の方の割合が多くなりました。
世帯構成でも、夫婦・親子の２世代家庭が多いですが、単身（一人暮らし）の割合が思っていた以上に多かったです。

住み良さ・住み続けについて

「住み良い」理由

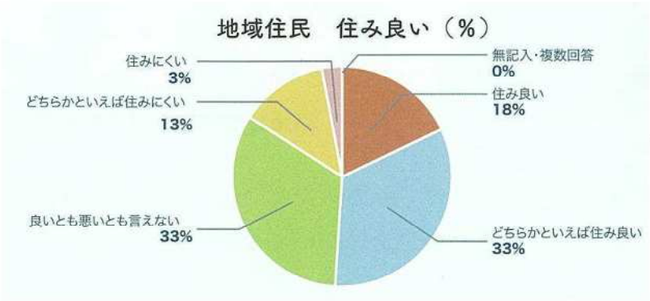
・自然環境が良い、豊かな気持ちになれる（３１名）
・産まれ育った所、長年住み続けている（２４名）
・地区の人とのつながりが良い、助け合っている、人が親切（１８名）
・安心して暮らせる、治安が良い、静かで落ち着く（７名）
・先祖、跡取り、家がある（６名）
・朽木が自分に合っている、気にいっている（６名）
・子どもがのびのび育っている（２名）
など

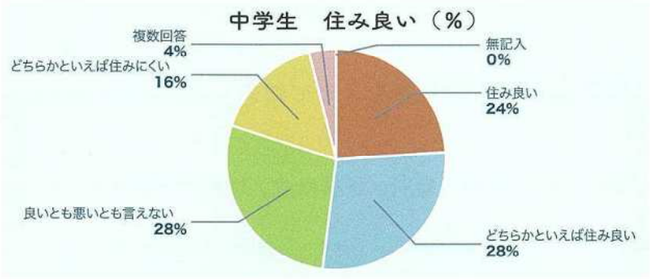
「住みにくい」の理由

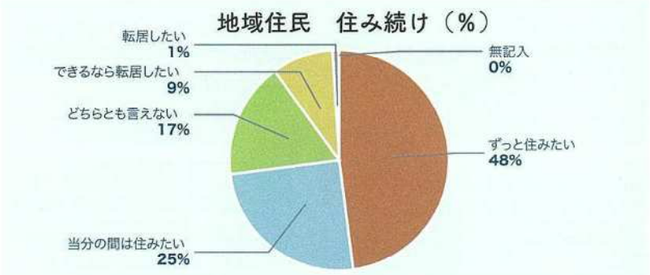
・店が少なく、スーパーがない（27 名）
・とにかく交通が不便、車の免許がないと住めない、免許返納後が不安（１９名）
・冬は雪があり心配（１１名）
・今さらどこにも行けない（８名）
・医療関係が診療所しかない（６名）
・頼る所がない（３名）
・老後は駅に近い所や病院に近い所に引っ越す（３名）
など

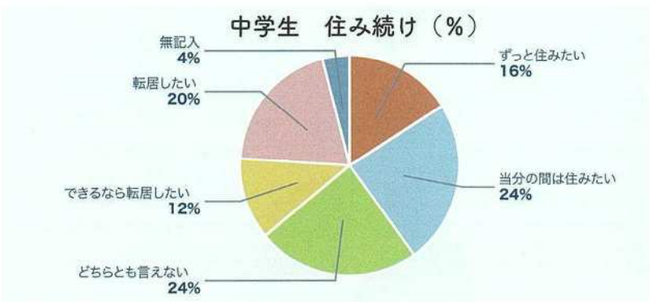
中学生のアンケート結果より

・住み良さは地域住民と同じ傾向だが、住み続けについては、住み続けたい割合が大きく減り転居したいの割合が増えている。
・それは、将来の仕事への展望があまりない事や移動手段・商店・娯楽施設の不十分さが原因と思われる。

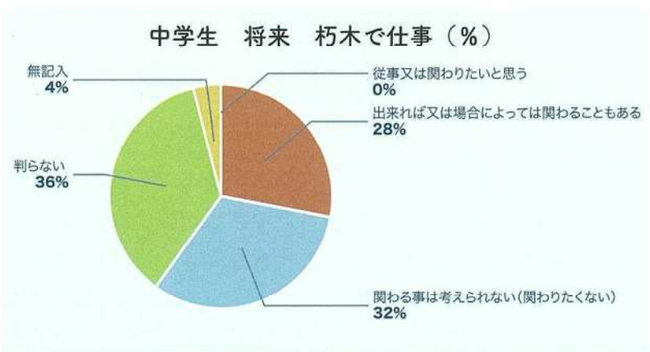




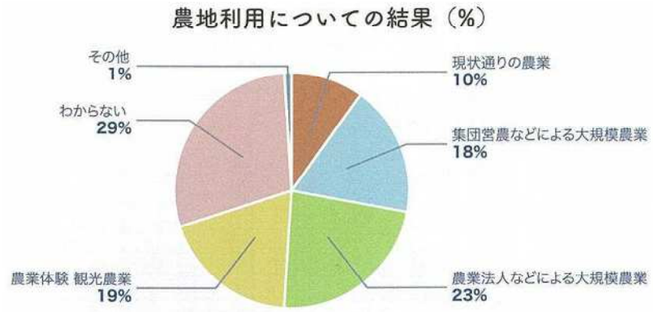




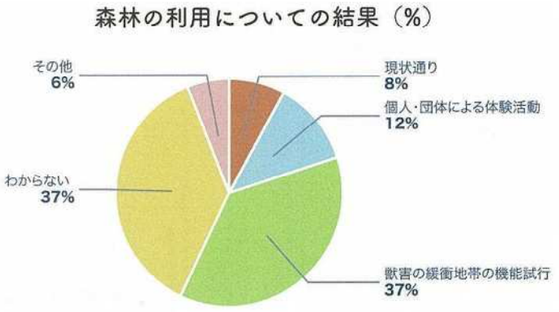




農地・森林の利用について

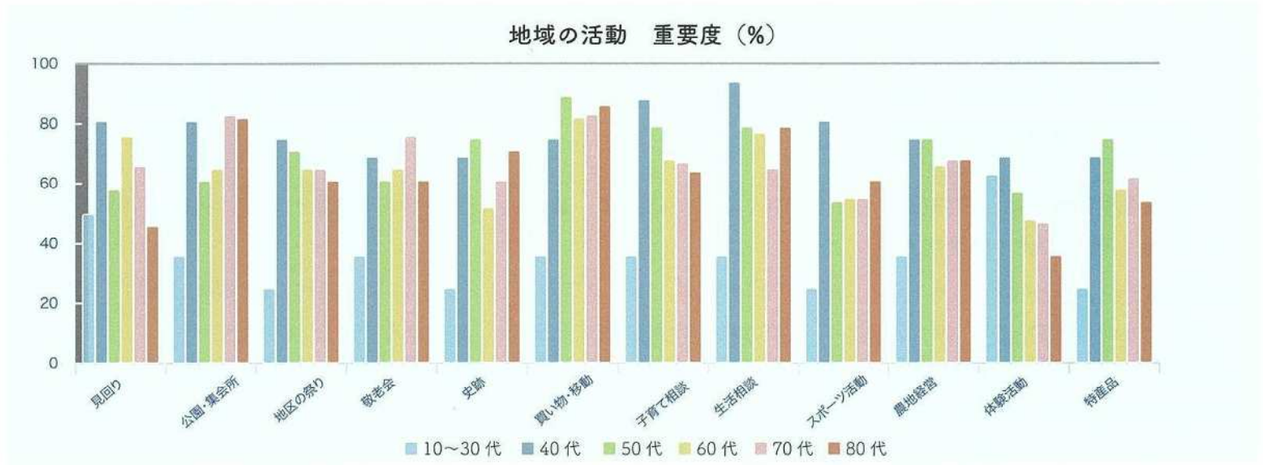


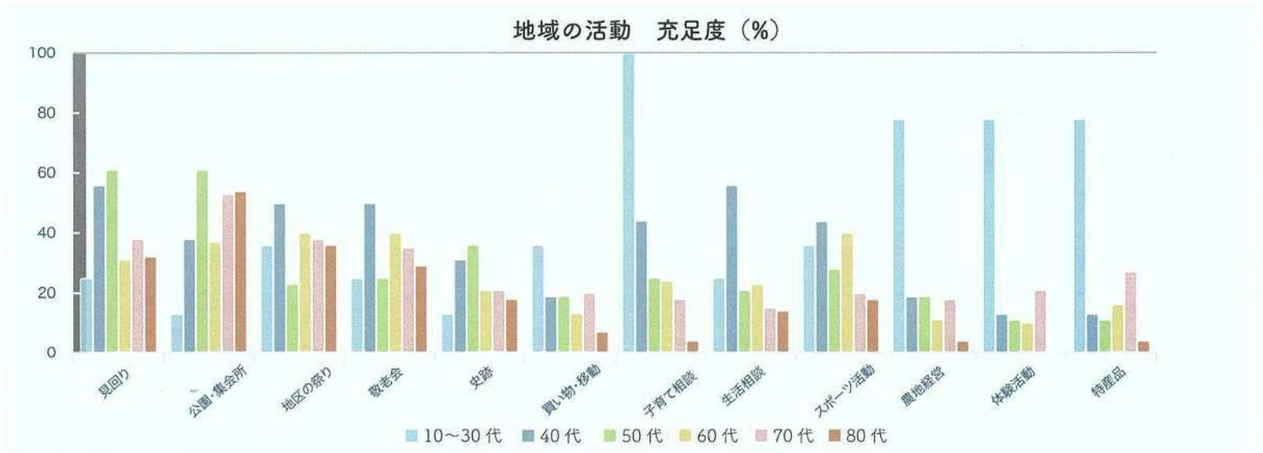
集団営農や農業法人による大規模農業転換の意見が多い。農業体験や観光農業も比較的多く誘客事業として模索できるかも。



獣害緩衝地帯の機能試行が多く、住民の獣害に対する不安感が表れている。何かプランを考える必要がある。

地域の活動や現状についての重要度と充足度の結果





10 ～ 30 代の数値は、回答者数が少ないため割合のブレが大きく、留意下さい。
買い物・移動は、重要度は高いが充足度がかなり低く、課題が多い。必ず取り組まなくてはいけないと思われる。子育て相談や生活相談も充足度が低い。
充足度が比較的５０％に近いのは、公園・集会所、見守り、地区の祭り、スポーツ活動で、それ以外はかなり低く改善が必要な項目が多い。